



(第42号)

航跡

早稲田ヨットクラブ

2005年6月発行

発行者：会長 並木茂士

編集人：米田晴二・平戸雅幸

並木会長にインタビュー

* 会長としてこの一年で感じられたことは？

(並木会長)早稲田大学が、大きな潮目にいるということです。

21世紀の社会の期待にこたえて行けるよう、早稲田自身の志をはっきりさせながら中身を个性的に構築していると感じています。スポーツの分野でもきわめて明確です。

総長ご自身が、競技スポーツ各部の全OB会長と直接顔を合わせて意見を述べ合う機会もありました。大学当局の皆さんはそれぞれの立場で明確な動きをされています。

2003年に体育局を改組して設置された「競技スポーツセンター」は「スポーツ振興に寄与すること」を目的とし、体育各部を統括し各部の活動をきめ細かく支援しています。ヨット部長(近江教授)は大学から任命され、部長は監督を任命します。また学生部員と密接に交流され、主将を任命されます。私たちOB会は大学の組織・機構とその意図をよく理解しながら、ヨットという専門分野からの意見・情報を提供する立場にあり、大学の方針に沿った協力をしなければいけません。



2005年度稲門体育会会員総会での並木会長

全競技各部それぞれの事情で力の結集の成果に差が出ているのが現実のようです。野球、ラグビーで成果が上がっていることは皆さん既にご承知ですが、特徴的なのは卓球部(28年ぶり)弓道部(43年ぶり)が全国優勝を果たしていることです。私たちヨット部OB会も大学に協力しながら、大きな目的に力強く前進しましょう。

一般学生対象の体育実技は「オープン教育セ

ンター」に移管されました。昨年の受講生の中に60歳代の文学部の学生さんがおられ、立派にヨットのスキルを体得されました。最終日のヨットレースで好成績をあげられたのを見ることができました。生涯スポーツのあるべき姿を目前にして大変うれしいことでした。

こういう大学の新しい動きに敏感に対応できるように、わがクラブは新しい規約を決定しました。12月11日の臨時総会でみなさんにご承認いただいた内容に沿って、新しい幹事会が発足し着実な運営を開始しております。

* 「幹事会」は従来とどう違いますか？

(並木会長)新しい規約に基づいた「幹事会」は決められた幹事に責任を持って運営していただくため、すべての議決は規約に定めた有資格者で行います。幹事は規約に定めた通り、各年代から選ばれております。一部に誤解があるようですが高齢者に偏ってはいません。

議事録はホームページで会員どなたでも閲覧できます。大学のヨット部支援のためですから大学当局(競技スポーツセンター、ヨット部長)にも常に経過を報告しています。4月からは学生幹部にも参加して傍聴してもらい、経済的問題も含めて透明性の高い協議をしています。学生たちもOB会の意図を理解してくれて率直な対応をしております。近く学生主催で先輩との交流会を企画していると聞いております。ぜひ参加していただきたいと思います。

殆どのOBの皆さんは早くみんなで団結して学生を応援したいと願っておられると思います。支援の一本化のために会費未納の方は先ず払ってください。

* 学生ヨット強化の道筋は、どう進めますか？

(並木会長)「競技スポーツという世界」の中でのヨット部ですから結果を出すために「現役ヨット部を強化するための支援をする」のが役割と認識して、きちんとした方向付けをします。OB会は単なる仲良い倶楽部でなく、現役ヨット部を強化するために団結するのです。幸い、大学当局も方針を明確にされており、OB会に任せっぱなしということではありません。総長

自らの方針に沿って動いております。学生たちは近江部長の指導、久保田監督の指揮の下でシーズンを迎えました。日本一のヨット部を作るためにコーチに小松一憲氏を招きました。(アテネの470級の監督です。)今年から来年へ、順次指導密度を深めてゆきます。全日本の強豪チーム、関東の上位チームに比してウチは何が足りないのか、どこが劣っているのか明確に把握して、逐次手を打ってゆきます。大学にお願いすべきことはお願いしてゆきます。そのためにもOB会の団結、支援体制固めが大切です。

*** 中長期的目標と今日的課題は？**

(並木会長)早稲田大学ヨット部を「日本一のヨット部にすること」「世界に通用するヨット部にすること」です。そのためにOBの皆さんにお願いしたいことは「皆さんも海に出てほしい」ということです。昔の知識・経験だけでなく、現在の、今日のヨットの状況を知り明日からの流れをつかむため潮風に当たってください。それで現実に即した支援体制を構築しましょう。

白井総長、相模湾セーリング会 江ノ島-(葉山沖)-佐島-(三戸浜沖)-油壺

平成16年8月12日、白井総長は相模湾でのセーリングを体験されました。

江ノ島に集ったのは、白井総長ご夫妻、口元総長室長、宮崎競技スポーツセンター長。

待機していたのは早稲田ヨットクラブ並木会長以下のヨット部OBの面々。

09:00;「稲魂号」は微風の相模湾へ出帆。随行するのは、「スーパーサンバード号」、東京夢の島から回航して参加。午前のコースは南東に向かって佐島マリーナへ。真夏の高気圧の中で快晴順風。総長ご自身が舵を持たれて帆走。



舵を執る白井総長

11:30;佐島マリーナに入港。ここでは10日ほ

ど前に「体育実技ヨット」が行われていた海面で学生諸君の歓声が上がっていたところ。講師石合氏から実施状況を詳細ご報告。

総長を囲んで、理工学部のヨット部OBたちが昼食懇談。(ヨット部は理工学部OBが多い)13:00;佐島マリーナを出帆。さらに南下。沖に出ると僚艇「げっこう号」がお出迎え。‘都の西北’も聞こえる。学生の合宿所(三浦市三戸浜)沖あたりで470級とスナイプ級に乗った学生現役部員たちが帆走お出迎え。各艇一緒に油壺港へ。

14:30;世間の喧騒を離れた別世界。緑と蝉の声の中を各艇は静かに入港。

この日の相模湾は、波がなく風がよいという稀なる絶好のコンディションでした。総長は自ら舵を取り十分セーリングを堪能されました。

上陸後は「月光ハウス」で並木会長以下大勢のOBと4年生部員との総長懇談会。理工学部石山教授ご夫妻も海外出張帰国の成田から駆けつけられ参加されました。学生から70歳を超えるOBまで、まさに生涯スポーツ・ヨットの現場を視察していただきました。

シーズン開幕 各地で活躍するOBだより

- 平成OB諸君の活動 -

Laser クラス 平成9年卒の大塚です。

卒業後、スキッパー経験を積むため逗子のフリートメンバーに所属。全日本優勝を目指して週末活動中。

レーザーは老若男女問わず幅広い年齢層が時間的経済的に余裕を持って取り組むことができるクラスです。

またヨットを再開してみたいという方は下記のサイトをご覧ください。

<http://www.cityfujisawa.ne.jp/~psjpn/zuyo.html>



レーザークラス 上マークを回航する大塚H09 OB

(レーザーラジアル級が2008年北京オリンピックの女子シングルの艇種にシドニー・アテネで使われたヨーロッパ級にかわって採用されました。Laser クラスでは早稲田大学3年女子の浜口睦美選手も頑張っているようです。レーザー全日本レディース選手権大会など海外レースのクオリファイをかけて臨んでいるそうです。)

49er クラス 石橋 H8 年卒です。

アテネオリンピックで代表を逃した後、470 女子の代表吉迫・佐竹組(同志社 OG)に技術アドバイスを頼まれ2ヶ月間アテネへ帯同してきました。本意な形でとはなりましたが次を狙う為にはいい経験だと思い、くやしい気持ちを抑えながら自分がいるはずだった大会を見てきました。風は一日だけ8~9m位の風が吹いただけで、残りのレースは全て3~4mくらいでした。吉迫組は初日にカナダに抗議をされ失格、男子では金メダル最有力だったオーストラリアも失格(関組の抗議により)、二日目メダル候補だった男子ウクライナもラダー破損の為トップだったレースをDNF、など有力選手が初日前半で大きくスコアを崩していきました。そんな中、日本男子関組は周りに惑わされず自分達のペースを守り続ける事ができたからでしょうか、結果的にメダルを獲得できました。吉迫組は初日第一レース第一上マークをトップ回航したにも関わらずそのレースが失格になった為、初日から精神的に追い込まれてしまいました。男子オーストラリアやウクライナなども前半の崩れが精神的にダメージが大きかったように感じました。

特に感じたことは、人の心はレースによって大きく動かされますが、ヨットレース自体はオリンピックだろうと国内のレースだろうとやる事は変わりません。いかに戦うことに集中できるか、どんなレースどんな状況でも変わらぬヨットレースができるかという事がどれほど大事でどれほど難しい事かという事を痛感しました。今は次の北京に向け、49er で活動を始めました。今までの経験を踏まえて更なるステップアップをしたいと思います。ちなみに葉山へはパートナーの後藤(同志社 OB)が昨年引越しました。私はまだ福岡にいます。

シーズン開幕 各地で活躍するOBだより

EBB TIDE シーボニア(小網代)

S46 藤田亨です。

海と船が好きだった高校生の私は、当時の舵誌に紹介された「稲籠」に憧れて入部。その後レース毎に湧き出すアドレナリンの味忘れがたく、卒業以来シーボニアを基地に、チーム「EBB TIDE」で月例や初島ダブルハンドなどのクラブレースや、J S A F主催の島回りレース、

(オリンピックを目指した経験談、特にくやしい気持ち等の話を頂ければ学生たちが視野拡大や学ぶ点は大きいと思います。一度後輩の学生に話をしてくれませんか。)

470 クラス H8 年卒の吉峰秀樹です。

卒業後、地元高松市役所に就職。470級のヘルムスマンとして、2度のオリンピックチャレンジを行い、現在、3度目となる北京オリンピックを視野に活動を継続中。ちなみに H.P. は <http://www.roy.hi-ho.ne.jp/yoshimine/> です。



470 クラス 吉峰 H08 OB

J24 クラス 監督をしている S62 久保田です。早稲田でセーリングを初めて学び、卒業した後、J/24のチームをつくり17年仲間に恵まれヨットを楽しんでいます。運よく、イタリア、ニューポート、オランダなど4回ワールドも経験し、その楽しさと奥深さを感じています。今回 学生と接していると思うのは、せっかくのセーリングを短期的に、狭義に捉えているなという印象です。幸い早稲田には世界の TOP レベルでレース活動を続けている先輩、そしてセーリングを楽しまれている方達が大勢いらっしゃいます。今後、早稲田ヨットクラブが現役、OBの交流を深め、日本を代表するセーリングチーム、ヨットクラブになるように微力ながら活動していきますので、ご意見、ご支援お願いします。是非、学生と接していただければ幸いです。また早稲田ヨットマンの北京オリンピックでの活躍を祈願しています。

なお、J/24クラス2004年秋の全日本優勝「月光 J24」の H8 畠山、H17 石山 OB のおふたりには次回投稿をお願いします。

- ベテラン OB 諸氏の活動 -

ハワイのアサヒスーパーカップやローカルのクラブレースを楽しんでいます。

最近の我がチームは初心者の方を含め、武蔵工や若手の東海大OBを中心に15名を擁していますが、相模湾ではたまにH8 畠山氏、東京湾からS48 平戸氏、杉井氏、ハワイでは彼地在のS49 林氏に乗って頂いたりしています。

「EBB TIDE」は初代のQトン23ftから始まり、同26ft、ORC28ft、IMS/ORC33ft、直近の

ワイキキ在の2トン44ftへと変遷して来まし
 現在は、9月に蒲郡で開催される愛地球博協
 賛の全日本外洋ヨット選手権参加を目指して、
 目下7月進水予定でBOTIN&CARKEEKデザインの
 IMS37ftを建造中につき、静岡に行ったり来
 たりです。3月から7月までは自艇が無いため、
 GW恒例のミドルボートレガッタは運営手伝
 いで久々の岡勤でしたが、40艇の参加と天候
 にも恵まれて、これはこれで楽しい連休でした。

我が「EBB TIDE」の外山昌一オーナーは、S45
 大矢木OBと同期で私が三越入社時の売場の一
 年先輩で、学生時代はモダンジャズバンドのリー
 ダーでしたが、今ではJSAFの理事や三浦
 OSC会長を務めるなど、ヨットと海に首まで浸
 かってしまい、昨年の5月にはとうとう定年を
 待ちきれずに退職してしまったほどで、この責
 任の大半は私に在ると任じています。この責任
 をとって私も遅ればせながらこの5月に退職
 し、気心の知れた仲間達と、時間としがらみか
 ら開放されたヨットライフを楽しむ算段です。

最近では日本外洋ヨットを先導された諸先輩
 とOB戦以外でお会いすることがめっきり減
 ってしまい、かつ、相模湾では大原氏や久保田
 氏以降の若手OBのクルザー乗りもなかなか
 現れないのを残念に思います。

できればアフターレースのハーバーで、潮気
 溢れるレースの回顧は勿論、純な頃のヨット部
 時代の思い出や、屈託の無い心底愉快的話に
 興じられたら至福の極みです。



2004.10.8 シーゴニアにて Ebb Tideメンバー(右から藤田) テッキにしゃがんで電話をしているのが私、藤田です

「小島合宿所開き」 三戸浜神社にて

2005年2月13日

ヨット部部員員、新OB(4年生)監督、コ
 ーチ、幹事長、実技講師等OB諸氏が参加して
 三戸神社において合宿所開きが行われました。
 安全なクラブ活動、全日本インカレの優勝、学
 業成就の祈願祭が厳かに行われました。

た。(小松コーチは同28ftを譲り受けて沼津に係留中)

げっこう 油壺マリーナ

S42年佐々木肇です。

初島、下田クルージングをやりました。

5月3日午前10時、金沢OB以下9名(内女
 性3名)油壺出港。絶好の天気にて、午後3時
 初島入港。民宿にて新鮮な刺身と極上のワイン、
 お酒で宴会盛り上がる。

翌早朝、下田に向けて初島出港。伊東沖迄は
 素晴らしい航海なるも、川奈沖過ぎると南の強
 風(22-25ノット)に変わる。波、潮ともま
 すます悪くなる。乗員のコンディション他を考慮
 して、門脇沖にて下田を断念、油壺帰港を決定。
 午後3時帰港。厳しくも楽しい航海でした。



恋もヨットも・・・揺れるのネ

編集人より：江ノ島「稲魂」、長崎ハウステン
 ボス「だばはぜ」、夢の島「サンバード」・「早稲
 丸」、葉山「ミス日本」、はじめ沖縄、九州、四国、
 中国、関西(木場、西宮、蒲郡)横浜、新潟、
 東北、北海道等の日本各地でOBが活動していま
 す。また、世界に目をむけますと欧州、米東海岸、
 米西海岸、ハワイ、東南アジア等でもOBがそれ
 ぞれの活動をしています。

次号からは順に各地で活動するOB情報をご紹
 介していくことを企画しておりますので奮って
 情報提供とご寄稿をお願いします。

前列左から、新上期の関口、天貝、栗原、土田、内田の各君



- 春季インカレを終えて -

春季インカレが終わった段階で、学生情報を久保田監督からお話を聞きました。

諸先輩のみなさん、お世話になっております。現在、大学から指名を受け監督をさせていただいている久保田です。

5月21日早稲田大学大隈講堂におきまして競技スポーツセンター主催の2005年度体育表彰式・入部式が開催されました。その席で2004年度全日本インカレのスナイプ総合成績1位の西田君、原田君が個人名誉賞を、そして久保田が監督表彰を頂きました。



その後の懇親会の席で、佐藤競技スポーツセンター所長とお話させて頂きました。所長からも、早稲田の運動部は世界に目をむけ、成績も内容も日本一のクラブでなくてはならないと激励されました。

また WASADE CLUB との連携による地域貢献、ジュニア育成にまで話は及びました。

他の運動部の監督ともお話しする機会に恵まれましたが、みなさんいろんな面で苦労しながら日本一を目指して努力されていることを知り、自分自身励まされました。

さて本題の春のインカレレースの成績、戦い方の報告ですが、まず成績は、総合3位 4702位 スナイプ5位というものでした。

春のインカレは、秋のシーズンに向けての中間テストのような役割です。

ですから特に予選では、早速経験している新人を積極的に使い、各個人の実力を見極める作業をしました。その中で、各個人の課題、チームとしての課題も明確することが出来ました。

今後、これから秋に向けて小松コーチをはじめ、コーチのみなさん、OBのみなさんの力を借りて11月の江ノ島での全日本インカレに臨みます。

またこの場をかりて、レースに駆けつけてくださったOBの皆さんに感謝します。

今後ともアドバイス等をお待ちしています。



久々に関東女子インカレに参加の南野(右側)・松本組(左側) 470クラス

平成17年度の大型艇「稲魂」活動について

「稲魂」は、レース艇ではありません。ヨット・クルージングの基本的な事を学びながら、海と風の関わり合いを、如何に楽しもうかと言う、仲間を如何に増やすかと考えています。

今年も活動は、基本的には昨年実績同様に、「体育実技」の研修艇、学生・OBレースの本部艇、応援観覧艇として運航します。

運行予定を毎月前月末に「早稲田ヨットクラ

ブホームページ」の会員専用掲示板に掲載しますので詳細はそちらを見てください。

特に、各OB諸兄が、一度は乗船してください。学生部員を含め、同期会や家族、勤務先、友人、その他のグループで活用して下さい。動かすことが艇のメンテに必要です。

参加される方は濱田まで連絡下さい

090-1043-2507

E-mail アドレス: y-hamada828@kyp.biglobe.ne.jp

2005年度体育実技について 早稲田ヨットクラブ会員の皆様へ

S62年卒の松下です。

長らく講師を務められた石合先輩の後を引き継ぎ、今年より実技を担当させていただくことになりました。皆様よろしくお願ひ申し上げます。さて、今年の実技ですが、

日程 7月31日(日)～8月5日(金)
会場 佐島マリーナ
受講者 約40名
の予定で行います。

単に授業を行うだけでなく、ヨットに対する理解を深めることで、大学内のヨット部サポーターを一人でも増やし、結果として強いヨット部実現の一助になる事を目的としております。

日程が半分になりましたが、実技はヨット部支援に不可欠な、実技はヨット部支援に不可欠な倶楽部の重要事業であることには変わりあ

りません。

O Bの皆さまには、例年以上のご支援をいただき、是非とも実技を成功させたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。



佐島マリーナの実技風景(艦装)

「同志社の総会資料から学ぶ」

広報担当

先日、仲良くさせて頂いております同志社O Bの友人を通じて同志社ヨット部O B会(鯨会)の総会資料を入手しました。それはまるで時系列に行事イベント毎の収支決算書が網羅されており、これが金勘定にシビアな関西流かと感心いたしました。

当然のことですが、O B会が支援する同志社大学ヨット部の収支計画及び実績についてもキチット報告がなされております。

学生ハーバーや大学の宿所設備など良い環境を持つ同志社大学と早稲田大学の違いはありますが、O B会活動としても学ぶべき点多々あり、以下に主な気付き事項を挙げさせていただきます。

1. 財政面

・年会費の納入率

会員の会費納入義務、卒業年度別会費納入率が明確にされています。2004年度請求人数(昭和31年以前卒業の方は含まず)364人、うち入金者数240人で66%の納入率です。うち自動振替の方208人。

三田ヨットクラブは76%の納入率と聞きます。

WYCは2003年度で人数382(466)人、うち入金者154(168)名で40%(36%)と低い納入率です。()内は昭和30年以前の方を含む値。

・O B会の学生支援

平成17年予算では現役支援金、インカレ支援、監督/コーチ活動費(240)、新艇購入補助は別枠にて基会計借入(120)を計画。新艇購入費の半額は学生がアルバイトで負担するそうです。

今後、WYCも必要なインカレ遠征、監督/コーチ活動費等の予算化と新艇建造支援を行っていく必要があります。

・学生基金設置と卒業後の返済管理

学生奨学金(貸付)基金をもち、卒業後に返済するシステムが運用されています。

2. O B会活動面

- ・同志社レガッタ等活発な行事イベント
- ・海外大学(オックスフォード大)との定期戦
- ・国体、オリンピック等競技会へ参加選手(学生、O B、O G)へのO B会支援活動

これらの活発な活動、定期的な海外交流が図られていることなど、是非参考にしていきたいものです。

2005年度OBヨットレースから当番制を導入!

岡戸副会長

皆さん、OBレースに参加し、多くのヨット仲間、とくに他大学のOB仲間と旧交を温めませんか。毎年OBレースには、早慶OB、10大学OB、東京六大学OBと四大学OBがあります。

またA級ディンギー全日本大会へも早稲田ヨットクラブから参加しています。できるだけ多くのOBにヨットレースに参加を頂いて、もう一度、青春時代を呼び戻してください。そこで本年から当番制を実施していくことになりました。

本年は2005年なので、1995年、1985年、1975年卒とその次年度1996年、1986年、1976年のOB諸氏に当番を担当頂きます。来年は1年ずつずらすこととなります。各幹事から要請がありましたら同期と誘い合って参加ください。

10大学OBヨットレース

日 時 6月4日(土)5日(日)
場 所 長野県諏訪湖ヨットハーバー
名称は10大学ですが、参加校も増えており今年もまた何校か増えることでしょう。観光・温泉を兼ねて参加していただきたい。スナイプクラス、シーホッパークラス各1艇でやります。艇の点検もあるので7~8名は参加願いたい。これまで人数がそろわず2回欠席しています。
(幹事 木内博太郎 (40年卒))

早慶ヨット戦OB戦

伝統の早稲田、慶應両校のヨット部OBによるレース。過去、2000年、2002年、2004年と偶数年に開催されています。(4大学OBヨットレースが関東で開催される年はなしとしています。)

東京6大学OBヨットレース

日 時 7月9日(土)
場 所 葉山マリーナ
2001年発足したOBレースで例年多くのOBが参加し賑わっています。

最近は大学スポーツの人気凋落が言われていますが、日本の学生スポーツ界をリードするのは東京6大学の歴史と伝統によることが大です。OBレースに負けないで学生達も頑張ってもらいたいものです。

東京6大学は神宮の杜だけではありません。相模湾で6大学が海の王者を競い、老いも若きも往年を思い出して夏の1日を楽しみましょう。

(幹事 岡戸義一(42年卒))

Aクラスディンギー全日本選手権大会

日 時 7月1日(金)~3日(日)
場 所 琵琶湖ヨットハーバー
1991年に関東の7校が集まり、スタートしました。Aクラスディンギーは昭和47年

(1972年)を最後にインカレから姿を消し、今ではこのレースが唯一のAクラスディンギーレースです。ヨットのルーツAクラスを操れるヨットマンは50代以上のシニアクラスになります。そのシニアヨットマンにとって年に一度のチャンス。ノスタルジーを求めて参加してみませんか。あの赤いボディーに思い出のある方……。

(幹事 舟岡正(31年卒))

4大学OBヨットレース

日 時 10月1日(土)、2日(日)
場 所 葉山マリーナ

歴史のある東西の対抗OBヨットレース。早稲田・慶応・同志社・関西学院の4大学が毎年持ち回りで幹事開催します。秋口の開催で天候次第。やや肌寒さを感じますが、他のOBヨットレースと違ったホットな雰囲気のあるレースです。

レース前日のアトラクションや前夜祭がまた楽しみの一つです。

(幹事 未定)



2004年7月17日東京六大学ヨットOB戦(葉山)

事務局だより

<会費納入のお願い>

早稲田ヨットクラブの運営は会員の皆様よりいただく年会費が基盤です。しかし毎年運営担当役員が努力して、支払い率の向上を皆様にお願ひしていながら、期待しているような金額達成には程遠いのが現状です。最近入手した同志社OB会(鯨会)の資料によると、2004年度の支払い義務会員(70歳未満)364名に対し完納者は240名で、66%の会員が義務を果たしています。同年度のわがクラブでは概略40%という数字になっています。つまり我々は同志社の60%しかOBが協力していないという事になります。皆様の今まで以上のご協力を切にお願ひ申し上げます。会費については、毎年1月27日に銀行口座から自動引落しをさせて頂いております。

事務局からの別添のご案内をご覧いただき、**年会費2万円のお振込み**をお願いいたします。

<早稲田ヨットクラブのホームページ>

早稲田ヨットクラブは、ホームページを開設し内外に情報発信をしています。また、早稲田ヨットクラブ会員を対象に情報交換の場として掲示板を開設しています。

<http://www.wasedayacht.org/>

<幹事会の開催>

幹事会に気軽に参加下さい。会員皆様のご意見ご要望をお待ちしております。

日時：毎月第3木曜日

場所：赤坂永楽倶楽部(千代田区永田町2-12-4 山王興和ビル7階) 電話03-3580-0046

(注)開催案内、議事録は会員専用掲示板に掲載されています。参加希望のOBは事前に幹事長もしくは幹事までご連絡ください

<早稲田ヨット強化基金へのご寄付のお願い>

募金実行委員長 江上 尚良
幹事長 中村 重昭

早稲田大学ヨット部は、故小沢信三郎名誉会長の創立、昭和14年の早稲田大学公認以来、70有余年の永きにわたりヨット界および日本社会にあまたの人材を輩出してまいりました。東京オリンピックをはじめ、各オリンピックに強豪選手を派遣するとともに、学生ヨット界、社会人ヨット界の指導者的地位を維持してまいりました。しかし、全日本学生選手権については、昭和30年の総合優勝以来、49年のものあいだ栄光から見離されております。大学も早稲田創立125周年には43各部が全日本で1位になることを目標に掲げOBの支援協力を

求めております。今この期に及び、早稲田ヨットクラブとして、学生ヨット部の全日本制覇を強力に支援し、再び学生ヨット界のリーダーたる地位を回復させたいと念じる次第です。

そのため、以下を軸にした施策を実行に移したいと熱望しております。

- ・新艇の建造
- ・専任コーチの招聘
- ・安全(レスキュー)体制の確立

諸掛繁多の節にまことに恐縮ではありますが、熱き青春時代に思いを馳せていただき、現役学生諸君に栄光を味わわせていただきたく、ご助力ご負担の程よろしくお願ひ申し上げます。

<ご意見をお寄せ下さい。>

早稲田ヨットクラブ会長 並木茂士

E-mail: house@b-one.jp

〒238-0225 神奈川県三浦市三崎町小網代1240

: 046-882-1901

ファックス番号: 046-882-1903

早稲田ヨットクラブ幹事長 中村重昭

E-mail: sn-raw@abox5.so-net.ne.jp

〒234-0815 船橋市西習志野1-41-13

: 0474-66-0412

早稲田ヨットクラブ会計幹事 畠山知己

〒228-0811 神奈川県相模原市東林間4-5-1

平和ハイツ303

E-mail: hatakeyama.tomomi@basic.gr.jp

: 042-748-3415

<編集後記>

「航跡」の歴史について

早稲田ヨットクラブの機関紙「航跡」は戦前1940年くらいから存在していました。初期のそれは、学生が先輩と連絡を密にするために作ったようです。そして1977年ころ、OBクラブが学生ヨット部の支援のための機関紙として、新たに発行するようになりました。「航跡」の名を引き継いで。その目的は現役の活躍ぶりを諸先輩に伝える役目でした。そして善意の支援をお願いしました。目的は新艇の建造のためでした。

さて2005年の今、この作業はまったく別の目的を持たねばならなくなりました。単なる現場の報告もクラブの運営事項も、今はインターネットで誰でもすばやく伝達可能であり入手可能な状況が実現しているからです。では、何を目的とすべきでしょうか。今回は大学の方々、一般の学生さんに「早稲田ヨット」を紹介することを主眼に置くことにいたしました。その目的が達成できるかどうか。歴史はこれから作られます。